

学校法人身延山学園身延山大学短期、中・長期計画

<平成31年4月1日～令和6年3月31日>

期 間 項 目	短期（平成31年4月1日～令和2年3月31日）	中・長期（平成31年4月1日～令和6年3月31日）
大学改革	1. 大学の再改革についての検討・実践 ・介護福祉士養成課程の32年度からの募集停止 ・32年度入試状況による保育士養成課程の存・廃の判断 ・教職課程存・廃判断のための資料準備 ・入学募集定員減少の再検討 ・学生確保の具体的行動 ・附属高校との緊密な連携 ・その他	1. 大学の再改革 (1) 介護福祉士養成課程の32年度からの募集停止履行 (2) 保育士養成課程の存・廃の判断 (3) 教職課程存・廃の検討 (4) 入学募集定員減少の再検討 (5) 学生確保の行動実践 (6) 附属高校との連携強化
教育、研究等の質の向上への措置	1. 教育の質の向上 ・iPad・電子黒板を利用したアクティブラーニング教育の実践の継続 ・アカデミックアドバイザーによる学生個々の指導の強化 ・カリキュラムの徹底の見直し ・社会福祉士・介護福祉士国家試験対策の強化（在学生） ・学生による授業評価アンケートを基に、授業参観を実施 ・FD・SDを具体的に実施 ・IR室と各委員会との連携を図る ・COC+、CCRCへの引続き参加 ・CAP制による履修上限単位数をGPAポイントと連動させ、学生個々人の学習指導を強化する ・ナンバリング制度を活用する ・eポートフォリオの導入の検討 ・ティーチングポートフォリオ導入の検討 ・ルーブリックの導入の検討 2. 研究の質の向上 ・研究費に係る説明会へは積極的に参加する ・教員は最低でも1回は研究費に係る事業に応募する ・ラオス世界遺産仏像修復プロジェクトの継続実施 ・仏像修復技術者の継続的受入れ ・峡南地域各町・南アルプス市商工会との連携による共同研究の実践	1. 教育の質の向上 (1) 教育効果の向上を図るべく、少人数制教育の徹底と学生への個別対応(アカデミックアドバイザー)の強化継続 (2) 身延山大学としての特色を出すカリキュラム改正 (3) 社会福祉士・介護福祉士国家試験対策の強化（在学生） (4) 教員評価制度を導入しこれに学生による授業評価を反映させる (5) 教育力向上を図るため、組織的なFD・SD活動を行う (6) IR導入後の、学修成果可視化と教育機能についての調査分析を行い、学生への反映を図る (7) COC+、CCRCへの参加による地域への貢献 (8) 職業人としての基礎的な能力向上を目指し、キャリア教育を充実する 2. 研究の質の向上 (1) 研究を継続的に発展させるため、研究費の獲得や研究の継続的実施の支援を強化する (2) 他の教育・研究機関との戦略的な共同研究を行う (3) 地域との連携を強化し、地域に貢献する研究を実践する
学生支援充実への措置	・健康診断(4月～5月)、生活相談体制の充実(通年) ・就職志望調査の実施(4月) ・キャリア教育、就職セミナーの実施(通年) ・採用動向及び学生個々の志望状況に対応した個別支援の推進(3、4年生対象) ・奨学金制度の継続、アルバイトの紹介、満足度調査の実施等により学生生活全般に関する学生の意見・要望に応じていく	(1) 学生の身体的・精神的な健康を増進し、安全・安心をキーワードに学生支援の充実を図る (2) キャリア教育、就職セミナーで学生の就職活動を支援する。不足する部分は個別指導で補う (3) 充実した学生生活が過ごせる様、個々の学生の状況に配慮した支援をする (4) 行学寮の管理体制、研修体制のより一層の強化・充実を図る
業務運営の改善及び効率化への措置	・組織体制の検証 ・業務連携の強化 ・個々の能力の向上（研修会への積極的参加等） ・専門員を招いた各種勉強会の開催 ・「学校運営に関するリスク」「コンプライアンスに関するリスク」「財政に関するリスク」「事務手続きに関するリスク」「情報システムに関するリスク」「災害などのリスク」への対応を行う	(1) 経営（法人）、教学（大学、高校）とが適切な役割分担を行える業務体制作りを行い、常に改善を図っていく (2) 教育研究水準の一層の向上と効果的な大学運営を図るため、財務状況を考慮しつつ中長期的な見通しのもとに、適切な教員及び事務職員の配置を行う (3) 事務職員の能力を高めるため、組織的なSD活動を行っていく (4) リスク管理体制の整備・充実を図る

期 間 項 目	短期（平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日）	中・長期（平成 31 年 4 月 1 日～平成 36 年 3 月 31 日）
学生数増加への措置	1. 広報の強化 ・進路関連雑誌やマスコミ等関係機関へ積極的に情報提供を行い、入試広報関連情報だけでなく、公開講座や出張授業等への取材も働きかける ・進路媒体誌等で資料請求した生徒には、ダイレクトメール等を送付する ・学園（大学・高校）の教育内容等を網羅したリーフレットを作成し、広く認知を図っていく ・英語版の大学リーフレットを作成し、諸外国の方々に認知度を上げていく ・ラオス世界遺産仏像修復プロジェクトの広報 2. 学生募集の推進 ・日蓮学専攻については大学、高校の入学対象者を全国的に訪問し、入学者確保に努める ・仏教芸術専攻・福祉学専攻については全教員と入試事務局所職員が山梨、静岡を中心とした近隣の美術系のある高等学校等を訪問し、志願者確保に努める ・高大一元化の強化により身延山高校からの入学者増加を図る ・オープンキャンパスの開催(高等学校の夏休みに合わせ、複数回特別開催し志願者確保に努める) ・上記日程以外にも大学を開放し、授業体験などを通し志願者を募る ・進学相談会等へ参加し入試広報活動を行っていく(春～秋) ・支部同窓会等開催の際に、同窓生、親権者との連携、密接な関係作りを強化する。 ・秋季入学の実地・受け入れ態勢の検討 ・公開講座や上記訪問において、編入学希望者及びシニア層に対しても、編入学や長期履修制度、シニア入学試験の積極的な活用を進めていく ・入試問題作成者と入試問題の内容や出題内容を精査していく ・シニア層をターゲットにした募集戦略を練っていく	1. 広報の強化 (1) 入学者受入れ方針(アドミッションポリシー)に即した特色ある広報を継続していく (2) ホームページの充実を継続的に行う (3) シニア層向けに身延町の「広報誌」や「回覧板」等を利用し、より認知度を図る (4) 英語版大学リーフレットを作成し、外国人等の目に触れる場所に置いてもらえるように関係機関に働きかける (5) ラオス世界遺産仏像修復プロジェクトの推進 2. 学生募集の推進 (1) 専攻の実情にあった効率的な学生募集を展開していく (2) 身延山高等学校との連携をより一層強化し、高校への志願者確保に努めていくことで、大学への入学者増加につなげる。特に、近年高等学校仏教コースへの志願者が減少を辿っていることを踏まえ、互いに連携し学生確保に努める (3) ここ 10 数年かけて築いてきた県内各高校との結びつきを維持、発展させていくよう努める (4) 秋季入学の実施 (5) 学生専用宿舍の確保に努める (6) 通学の利便性を図っていく (7) シニア層向けの学生募集戦略を図る
財務内容改善への措置	・32 年度スタートに向けた給与体系を確立する。大学教員は実情を考慮した年収制度、高校教諭・職員は現行の給与制度の枠を広げる ・カリキュラムの見直しにより、非常勤講師の授業科目数、担当コマ数の削減に努め支出削減を図る ・耐震改修工事にかかる寄付金の獲得の継続を図る	(1) 人件費の見直しを図る (2) 大学教員、高校教諭、職員夫々にあった給与制度を構築する (3) カリキュラムの見直しを継続的にを行い、非常勤講師の授業科目数、又は、担当コマ数の削減に努め支出削減を図る (4) 本山を中心とした日蓮宗宗門からの寄付金増額に努める (5) 科学研究費補助金について、教員の積極申請を促し、職員もサポートしていく (6) 常に資産の把握・分析に努め、安全かつ効率的運用を行う (7) 通常の寄付金のほか、耐震事業にかかる寄付金獲得の継続実施
建物、設備機器等 不動産の新規・改修計画		(1) 老朽化施設への補修・建替え等の検討